

WYD SEOUL 2027 ・ オンライン説明会

韓国カトリック教会の 成立と発展

— 共同体の誕生から現代までの歩み —

2027WYD

「勇気を出しなさい。私は既に世に勝っている。」（ヨハネ16.33）

歴史の歩み



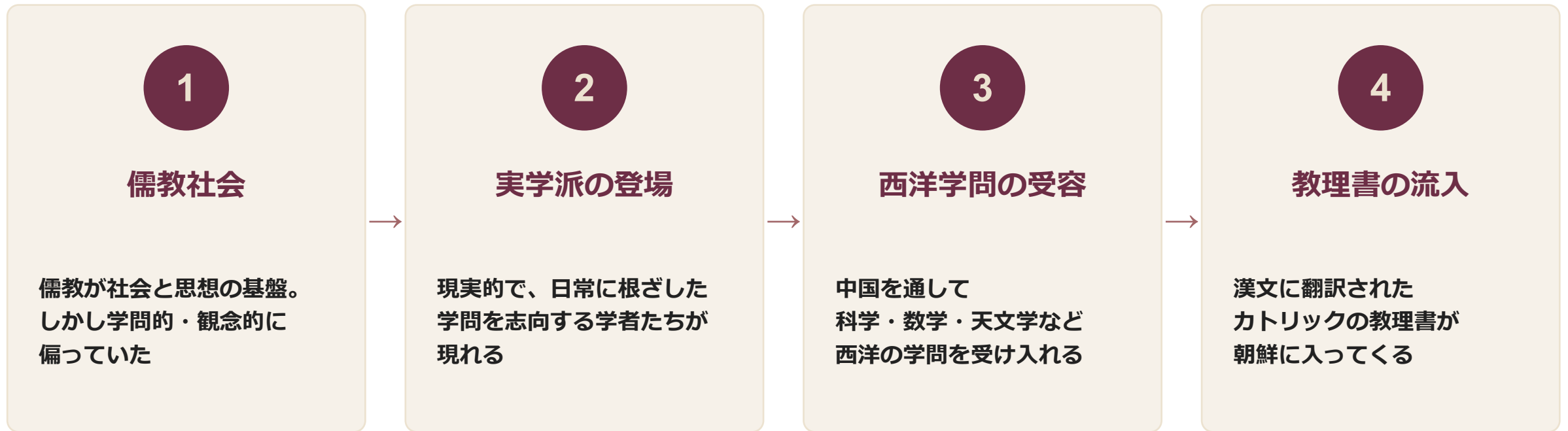
第1章

教会の誕生

— 学者たちの研究から始まった共同体 —



朝鮮時代の背景



学問への関心が、信仰への入り口となった

世界でも珍しい「自発的な」教会の誕生

共同体の誕生

1784年

- 実学派の学者たちが教理書を研究
- 学問として始めた研究を、「真理」として受け入れる
- 使節団の一員「イ・スンフン」が北京で受洗
(韓国人初の正式な洗礼)
- 帰国後、仲間たちに洗礼を授け、信仰共同体を形成

1784年

韓国カトリック教会の公式成立年



教理書を研究する初期の信仰共同体

仮聖職制度

- 宣教師によって建てられた共同体ではないので「叙階」の概念を知らなかった
- 学者10名を「司教・司祭」に選び、7つの秘跡を行う
- 教会法上は違法だが、当時は認識ができなかった
- 北京の司教の回答 — 「意図は良いが、違法である」
- → 自ら教会を築こうとした熱意が、正規の教会への道を開いた

1794年 中国人司祭 周文謨（ジュ・ムンモ）神父が入国

—— 朝鮮教会にとって最初の宣教師



ジュ・ムンモ神父

第2章

迫害と殉教

— 信仰を守り抜いた人々 —



初期迫害の原因

1 社会秩序の混乱

- 身分制度・男尊女卑の社会
- 教会は「すべての人は神の子として平等」と教える
- 西洋の宗教への警戒感（列強の介入の恐れも）

2 法事（祖先祭儀）の問題

- 儒教は先祖の法事をととても重視
- 教皇庁は法事を迷信として禁止（1742年）
- カトリック教会を
「先祖を捨てる教え」と受け取った

1791年 ユン・ジチュン、クォン・サンヨンが殉教 —— 韓国教会最初の殉教者

迫害の影響

- 身分の高い信徒たちが教会から離れる
- 差別されていた階層の信徒が増えていく
- 女性信徒も多く、教会の「平等性」が実際に示される
- 教会は社会の周縁に生きる人々の希望となった

1801年

全国的な大迫害（辛酉迫害）

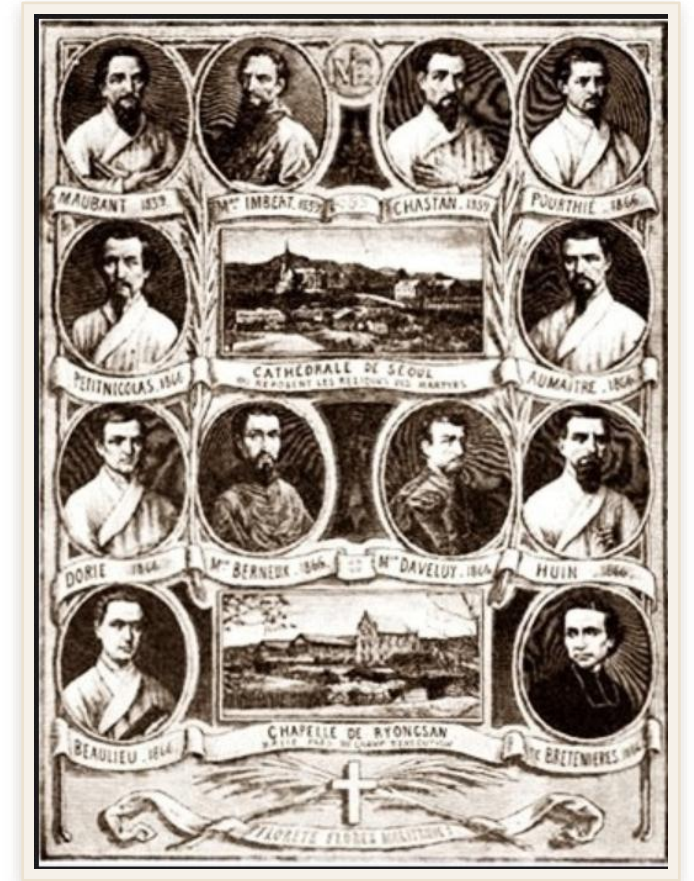
ジュ・ムンモ神父が殉教

朝鮮教会は再び「聖職者不在の共同体」に

朝鮮教区の設立

1831年

- 聖職者の派遣を求め、教皇庁へ手紙を送る
「朝鮮（漢文）→ 北京（ラテン語に翻訳）→ ローマ教皇庁」
- 教皇庁が朝鮮の共同体の存在を初めて認識
- 1831年、朝鮮を一つの教区として承認
- 宣教はパリミッションが担当（当時アジア宣教を担当）
- → 朝鮮の教会が、世界の教会と正式につながった瞬間



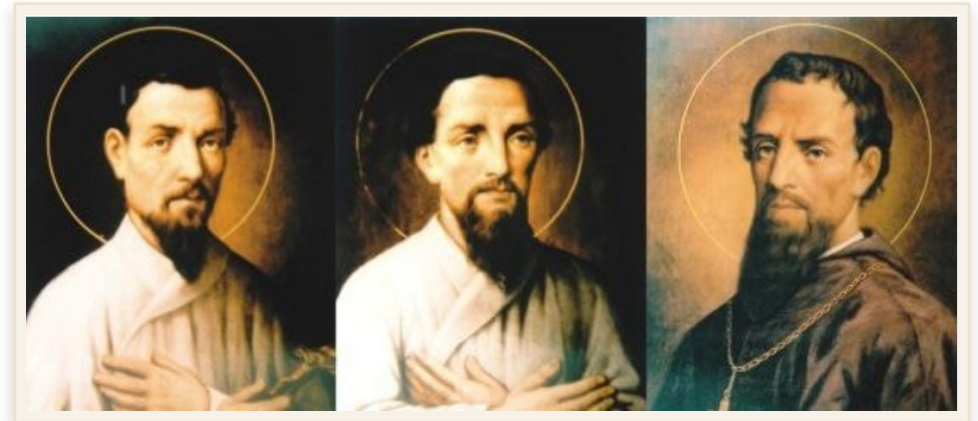
朝鮮で殉教したパリミッションの宣教師たち

自分たちの中から司祭を

韓国人初の司祭誕生

1835年

- 1835年～：宣教師3名が入国（モバン、シャスタン、エンベル）
- モバン神父が神学生3名をマカオへ留学させる
- 1845年：アンデレ・キム・デゴンが韓国人初の司祭に叙階
- 帰国からわずか1年で殉教（26歳）
- 1849年：チェ・ヤンオブ神父が帰国し、長く司牧を続ける



シャスタン神父・モバン神父・エンベル司教

聖アンデレ・キム・デゴンは、現在も「韓国の聖職者の守護聖人」として
敬われている

最も暗い時代

最大の迫害

1866年

- 政府が儒教体制を強化し、西洋の宗教と宣教師を拒絶
- 1866年、韓国史上最大の迫害（丙寅迫害）が起こる
- 列強のアジア進出により、警戒はさらに強まる
- 1886年：フランスとの条約で、ついに信仰の自由を獲得

1万人以上

殉教した信徒の数

約2万3千人

当時の信徒総数

12名中9名

殉教した
パリミッション司祭



殉教の場面を描いた記録画

第3章

自由と成長

— 信仰の自由から現代の教会へ —



信仰の自由後の発展

1898

明洞大聖堂が完成 — 信仰の自由の象徴

1911

ソウル教区と大邱教区に分割

戦後

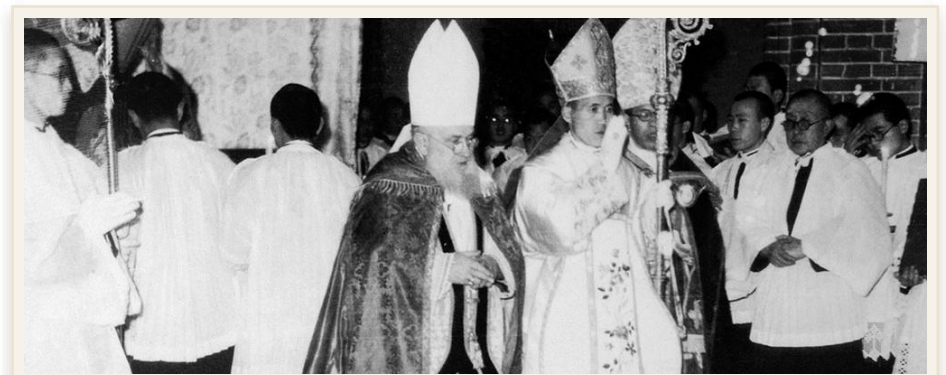
北方宣教の準備（南北統一後の宣教を想定）

1962

光州教区設立 → 三大司教区体制に



建築当時の明洞聖堂（1890年代）



韓国人初の司教 ノ・ギナム大司教の着座式

日本の教会との比較とともに

現在の韓国教会



現在の明洞大聖堂（ソウル教区のカテドラル）

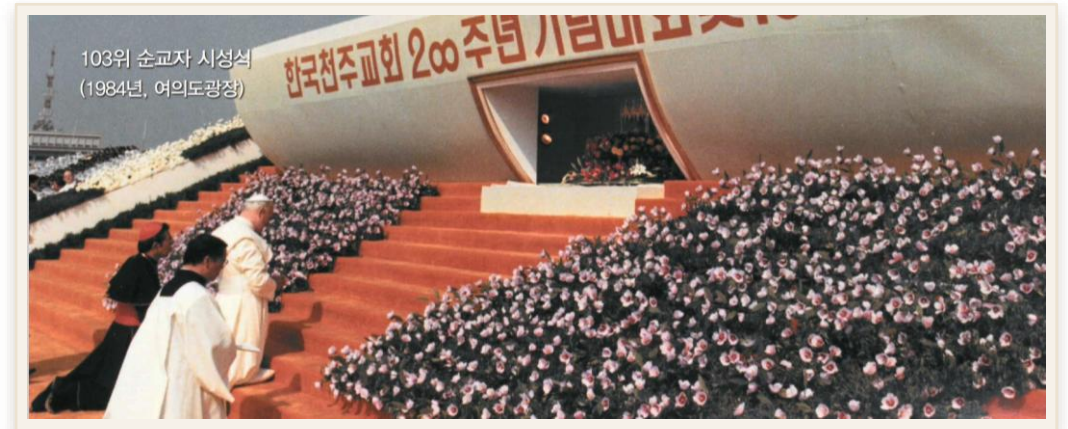
16 教区 （軍宗教区を含む／地域としては15教区）

- 韓国：16教区／国土 約10万km²
- 日本：15教区／国土 約38万km²（約3.8倍）
- → 日本は1教区あたりの担当面積が韓国よりはるかに広い

殉教者たちは聖人・福者へ

殉教者の列聖と列福

- 1984年：教皇ヨハネ・パウロ2世が訪韓
- 韓国カトリック教会創立200周年に103位の殉教者を列聖
- ローマ以外で行われた歴史的な列聖式として注目を集める
- 2014年：教皇フランシスコが訪韓。124位の殉教者を列聖
- 殉教者の信仰は、今も韓国教会の霊的な土台となっている



1984年 103位殉教聖人の列聖ミサ（ヨイド公園）



2014年 124位殉教者の列福ミサ（光化門広場）

まとめ

学者の研究から

宣教師によってではなく、「学者の研究」から始まった世界でも珍しい教会

試行錯誤と正規化

宣教師不在 → 仮聖職制度 → 北京・ローマとつながり正規の教会へ

殉教の中の信仰

度重なる迫害の中でも、信徒たち自身が信仰を守り抜いた

急速な発展

信仰の自由の後、急速に成長し、現在は16教区を持つ成熟した教会に

2027年、ソウル。この歴史が生まれた地で、世界の若者と出会う。

WYD SEOUL 2027